

〈東京都教育目標〉

子供たちが、知性、感性、道徳心や体力をはぐくみ、人間性豊かに成長することを願う。

〈練馬区教育目標〉

学校教育と社会教育との緊密な連携のもとに、人間尊重の精神を尊び、心身ともに健康・安全で知性と感性に富み、広く国際社会において信頼と尊敬が得られる人間性豊かな子供の育成を図る。

〈学校教育目標〉

人間尊重の精神をふまえ、世界の平和と人類の幸福を考え、行動することのできる人間の育成を目指し、次のような資質・能力を育てる。

- 1 心豊かな人
- 2 健康な人
- 3 考える人
- 4 共に生きる人

〈学校・地域の実態〉

生徒は明るく素直であり、元気な挨拶ができ、特別活動や体験学習に積極的に取り組む。家庭や地域は学校に協力的である。

〈目指す学校像〉

- 夢や目標に向かってあきらめずに『努力』する生徒の育成
- 仲間や周りの人に『感謝』の気持ちを常にもつ生徒の育成
- 練馬東中に関わる全ての人が『チーム練馬』として生徒の育成のために力を結集する

〈学校経営方針〉

毎日の授業の充実を基本とし、学力の定着・向上を図り、タブレットやＩＣＴ機器を活用した魅力あふれる質の高い授業や生徒が主体となって対話し考える授業を目指す。

〈各教科の指導の重点〉

タブレットやＩＣＴ機器を活用し、生徒が主体的・対話的に学べる学習環境を作る。

ガイドラインに沿った習熟度別少人数指導を行い、指導方法・形態を工夫する。

生徒による授業評価を基に、指導と評価の一体化を目指す。

〈総合的な学習の時間の指導の重点〉

ガイダンスを重視し、啓発的な体験学習を通して社会と関わり、知識や技能と生活を結び付け、課題解決能力を育成する。

〈キャリア教育の指導の重点〉

体系的系統的な進路指導の充実を図り、多様な進路の選択肢を十分に理解させて、正しい勤労観・職業観を育成する。

〈本校における「確かな学力」の捉え方〉

態度・知識・思考力・判断力・表現力からなる各教科、領域における本質的な能力（学力）であり、生きる力のもとになる力。

〈「確かな学力」を身に付ける段階〉

1. 理解的学力
→基礎知識、課題認識能力

2. 態度的能力
→自ら意欲的に取り組む能力

3. 技能的学力
→情報の収集・整理、表現能力

4. 思考的学力
→課題解決方法の探究能力

〈道徳教育の指導の重点〉

「人にやさしく」を意識させ、思いやる心を育み、いじめの未然防止、早期解決を図る。

道徳・学級活動の時間を柱として、差別や偏見をなくし、人権感覚を養うとともに他人との違いを認める心を育てる。

〈特別活動の指導の重点〉

学級活動、学校行事、生徒会活動、部活動を通して、社会性や協調性を育て、健全育成を図る。

〈生活指導の重点〉

礼儀・挨拶・時間前行動を徹底させ、教職員と生徒・保護者の信頼関係を構築するために「言葉」を大切にする。

スクールカウンセラー、学校生活支援員等との連携を強化し、個別に支援を要する生徒の指導を充実する。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫教育の視点
- 定期考査の分析 - 観点別学習状況の評価分析 - 上記資料による学習状況・学習実態の把握。 - 分析結果を反映させた授業改善推進プランの実施 - 授業のねらいや目標の明確化 - 主体的に学習に取り組む態度を育成するための指導法の改善や各教科での言語活動の充実 - ＩＣＴ機器を活用した生徒への適切な指導・助言 - 不登校生徒に対する登校への声掛けと、受け入れ態勢の用意	- 数学科、英語科における習熟度別少人数授業の実施 - 学期ごとに習熟度少人数授業の編成および組み合わせ変更 - 行事の精選と縮小 - 朝読書の充実	- 授業改善推進プランの検証を踏まえた研究授業の推進 - 学期ごとにおける適切な評価評定の在り方や指導との一体化 - ＩＣＴ機器など各種機器を活用した授業の研修 - 学習指導要領に合わせた指導計画の検証、改善	- 毎日の授業における観点別学習状況把握のための資料収集 - 生徒による自己評価表（個人内評価と反省）の導入とその充実 - 適切な評価評定の在り方の検証、改善 - 学習指導要領における評価の検証、改善	- 地域コーディネーターを通して地域社会との連携を強化し、学校教育への積極的参加の推進 - 学校関係者評価を十分に活用し、地域社会と学校が一体となった教育の推進	- 小中一貫を踏まえ、学習面のみならず生活面における支援の推進（中1） - レディネステストの実施と分析 - 小中が互いの特性を生かした乗り入れ授業などの工夫の推進 - 校区別協議会で「目指す15歳の姿」に向けて3分科会7グループにおける研究の推進と充実 - 課題改善カリキュラムの作成と改善

授業改善策の検証方法

- ・管理職による授業観察や、研修担当による校内研究授業を行い、授業改善策の成果を各教員にフィードバックする。
- ・学期ごとに教科部会を実施し、内容別・観点別の分析を行い、授業改善策の成果と課題を検証し、次年度の計画に取り入れる。